

私の目指す弁理士像

No.63

会員 山本 典弘

合格して何が変わったのだろうか

受験勉強期間がわりと長かったので（比例して事務所生活もわりと長い）、試験勉強が終わったら「あれをやる、これをやろう」と考えていたが、いざ合格してみるとなかなか進まない。

根本を探ろうと思っていた民法民訴関係は、S先生の連続セミナーに参加させて頂き、やっと入口には到達したかな、という感じである。大学受験（大学時代には英語をやっていない?!）以来遠ざかっている英語に近づく計画は手つかずで、映画を観ることもできない。受験中に苦しめられた腰痛の撲滅計画は（腰痛がなぜか小康状態で）放置している。

合格して、受験機関のゼミを手伝わせてもらい、かつて教員を志した時期もあり、教員もどきも経験させてもらった。

受験時代にはほとんど見なかったTVを、努めて見るようにしているので（実は、結構おもしろい）、これは大きく変わったことだろうか。

受験時代の暗記に留まっていた勉強が、実務により近い勉強に変わった（受験勉強がベースにはなっていることは確かだろう.....）。合格同期で勉強会をやったり、先輩方の研究会に混ぜてもらったり、おもしろそうなテーマのセミナーを見つけては、出かけられるようになった。

仕事では、明細書や中間・調査報告を書いたりする自分の枠内の仕事に加えて、相談・打ち合わせ.....、と自分の枠の外での時間が追加された。結局の所、“受験勉強時間”が“仕事と実務等の勉強”に置き換わったようで、私生活の時間はそう変わっていないようである。降ってきた仕事（自分で受けたのだから文句は言えない）を、火の粉を払うように片づけている、という感じである。

仕事のこと

業界を全く知らない人に「何やっているの?」と聞かれると「文筆業だ」と答えている。内容はともかく形式的には、何となく仕事を理解してもらっている。しかも、時によっては1日ひたすらキーボードを叩き続ける、体力を要する文筆業である。

文章を書くのはあまり苦にならないので（皆さんも同じだろうが）、明細書は結構楽しい作業である。何より、最後に仕上げる「要約書」が一番の楽しみになっている（ヘンだろうか?）。悩み抜いて完成した後の“密かな(?)楽しみ”である。削って削って400字に納める作業が何ともいえない。

明細書などの“仕上げる”達成感は格別である。《締め切り》と《責任》さえなければ、こんな楽しい仕事は無い（逆に、締め切りと責任とが、緊張感を与えてくれる）。

建築出身としては、図面で表現することも好きであり、急いでいる時には（超アナログだが）ロットリングを握り図面を書くこともあり、これもまた楽しい作業になっている。

逆に、時間的にも、仕事をしているのか趣味を楽しんでいるのかわからなくなっている面もある。

まとめ

で、本題の「私の目指す弁理士像」。他の事務所や企業の様子は伝え聞く程度なので、実際どんな「弁理士像」のパターンがあるのかよく分からないし、“目指す”選択肢も比較対象が少ないのでムツカしい。

どうも“取り敢えず”が口癖で、“取り敢えず”を積み重ねて、火の粉を払いながら、今日に至ったような気がする。まして、目指す姿など到底考えが及ばない。

身近な「弁理士像」や、あちこち顔を出している勉強会（やや首が回らなくなりつつある.....）の中からも、同輩や先輩方の姿から何か目指す将来が、見えてくるかもしれない。

先輩方は、皆、つまらない疑問にも快く教えてくれる。とにかく、一人でできることは限られている。この問題はこの人に聞けば分かるというネットワークへのアクセスポイントを得たい。私も、その中で情報発信できる内容を身につけたい。